

令和4年度 病院勤務医の負担軽減及び処遇改善計画

名古屋大学医学部附属病院

項目		具体的な取組内容	目標達成年次	
医師と医療関係職種、医療関係職種と事務職員等における役割分担	施設基準上、必要な項目	医師事務作業補助者 初診時の予診の実施	眼科・整形外科(脊椎班・腫瘍班)・内科初診患者に問診票を記載いただき、記載された問診情報と患者持参の紹介状の要約を電子カルテへ入力している。 令和3年度中より脳神経外科の初診問診の開始した。	一部実施済み (令和4年度も継続)
		看護師及び検査技師 静脈採血等の実施	病棟では看護師が静脈採血を実施しており、外来では中央採血室にて検査技師が静脈採血を実施している。	実施済み (令和4年度も継続)
		看護師 入院の説明の実施	入院案内センターを設置し、入院前に看護師により入院の説明を実施している。 PFMの導入に向け、入院案内センターでの記録を整備し、パイロット病棟(診療科)での入院案内センターでの業務拡大(入院時支援加算の取得)を始めている。	実施済み (令和4年度も継続)
		-- 検査手順の説明の実施	初回は検査オーダーをした医師により説明を行っているが、2回目からは医師事務作業補助者が案内している。初回の説明から医師以外の職種による実施が可能か今後検討していく。	検討中 (2回目以降は既に実施)
		薬剤師 服薬指導	全病棟に担当薬剤師を配置し、入院患者への薬学的指導を行っている。	実施済み (令和4年度も継続)
その他	看護師	特定看護師の育成	特定看護師の育成を推進し、医師業務のタスク・シフト/シェアの推進する。	実施済み (令和4年度も継続)
		MRI検査の静脈血管確保のタスクシェアへの取組の推進	MRI検査において、静脈血管確保が必要な場合に看護師もしくは放射線技師が実施し、放射線科医の労働時間の有効活用・短縮を図る。	令和4年度より開始
	薬剤師 術前中止薬の確認・説明業務の実施	耳鼻いんこう科、呼吸器外科、消化器外科1の外来患者を対象として、術前中止薬の確認・説明業務を行っている。	実施済み (令和4年度も継続)	
	医師事務作業補助者	医師事務作業補助者の増員及び業務の集約化	外来クラークを増員(常任会にて承認済)し、また業務の集約化を行い医師の事務作業負担軽減に貢献を目指していく。	令和4年度も継続
		がん登録データの入力補助	以前は医師が行っていたがん登録について、がん登録入力補助者(医師事務)が入力を行っている。	実施済み (令和4年度も継続)
NCD入力補助者の雇用	平成23年1月より一般社団法人 NCDが日本全国の外科系施設における外科症例の全数把握を目的としたデータベース作成を開始することとなり、当初は外科医師が入力を行っていたが、現在はNCD入力補助者を2名雇用し、11診療科分を入力業務を行っている。	実施済み (令和4年度も継続)		
臨床工学技士 臨床工学技術部 手術処置介助	心臓カテーテル検査において、カテーテル操作医師の清潔介助業務	実施済み (令和4年度も継続)		

令和4年度 病院勤務医の負担軽減及び処遇改善計画

名古屋大学医学部附属病院

項目		具体的な取組内容	目標達成年次	
医師と医療関係職種等における役割分担	その他 臨床工学技士	臨床工学技術部 検査介助	光学診療部内視鏡検査において、清潔野にてカテーテル操作医師の介助業務	実施済み (令和4年度も継続)
		臨床工学技術部 手術処置介助	経カテーテル大動脈弁置換手術、僧帽弁形成術等において、清潔野にて植込みデバイスの準備、カテーテル操作医師の介助業務	実施済み (令和4年度も継続)
		臨床工学技術部 手術処置介助	経カテーテル大動脈弁置換手術、大動脈系のステント留置術時の体外式ペーシングによる心室刺激操作	実施済み (令和4年度も継続)
	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	リハビリテーションの説明の実施	運動、感覚、高次脳機能(認知機能を含む)、ADL等の評価等を行い、リハビリテーションに関する方針や手続きに関係する各種書類の作成については、医師が最終的に確認又は署名することを条件に、療法士が書類を記載することや、当該書類について患者等への説明や交付を行っている。	実施済み (令和4年度も継続)
	言語聴覚士	侵襲性を伴わない嚥下検査と患者の嚥下状態等に応じた食物形態等の選択の実施	医師との適切な連携の下で、言語聴覚士が、患者の症状に合わせた適切な嚥下検査を選択・実施し医師に報告している。医師や関係職種との適切な連携の下で、言語聴覚士が、摂食嚥下機能の改善・悪化等の患者の状態にあわせて、訓練場面における食物形態を適宜選択している。	実施済み (令和4年度も継続)
医師の勤務体制等に係る取り組み	施設基準上、検討が必要な項目	勤務計画、連続当直を行わない勤務体制の実施	連続夜勤とならないよう勤務計画を作成している。	実施済み (令和4年度も継続)
		前日の終業時刻と翌日の始業時刻の間の一定時間の休息時間の確保(勤務間インターバル)	勤怠管理システムを導入試験中。勤務間インターバルを確保するために、兼業・副業先の労働時間を含めた勤務時間実績のシステムによる把握に向けて作業中。	令和4年度中
		予定手術前日の当直や夜勤に対する配慮	手術の休日・時間外・深夜加算1を届出している心臓外科では、予定手術前日の夜勤は行わないよう勤務計画を作成している。	一部の診療科で実施済み (令和4年度も継続)
		当直翌日の業務内容に対する配慮	当直翌日は、外来診察や手術等の予定を入れないよう、業務内容に配慮している。	実施済み (令和4年度も継続)
		交替勤務制・複数主治医制の実施	以前より、基本的に複数主治医制(チーム制)にて、診療を行っている。また、一部勤務条件の厳しい部署では、交替制勤務を導入しており、病院勤務医の負担軽減を図るために、当直明けや週末の勤務に配慮がなされている。	複数主治医制・実施済み 交替勤務制・一部実施済み (令和4年度も継続)
		育児・介護休業法第23条第1項、同条第3項又は同法第24条の規定による措置を活用した短時間正規雇用医師の活用	フルタイム勤務職員に対し、育児と仕事の両立を支援するため、育児短時間勤務制度を導入し、より働きやすい勤務環境の整備を図っている。(平成20年4月導入)	実施済み (令和4年度も継続)

令和4年度 病院勤務医の負担軽減及び処遇改善計画

名古屋大学医学部附属病院

項目		具体的な取組内容	目標達成年次
その他、 環境改善	その他	働き方改革の趣旨に基づく病院職員の業務についての方針の策定	実施済み (令和4年度も継続)
		夏季休暇の特例について	実施済み (令和4年度も継続) (3日追加付与は令和4年度のみ実施の予定)